

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 209

2021・10・04

稲の香や闇に一すぢ野の小道

—正岡子規—

台山を散歩の道すがら
栗の実が落ちているのを発見。
笛田を車で通ったら
ついこの前まで青々していた稲穂が
頭を垂れていました。
残暑長かった九月を過ぎて、
いつの間にか
秋は深まってきていますね。

○ CONTENTS ○

	PAGE
☆ 全国から集まった署名を提出、議会にも陳情し採択される	…1
☆ 令和3年度第1回図書館協議会傍聴報告	…3
☆ 「生誕150年記念 間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館 -その知られざる物語-」について 鎌倉国宝館 金子 智哉	…4
☆ いよいよ旧鎌倉図書館の修復工事が再開されます	…5
☆ 「間島弟彦生誕150年 間島夫妻の事跡を辿る」ご案内	…6
☆ 松坡先生をめぐる人々 2 阪正臣 袴田 潤一	…7
☆ 映画と本と図書館と / 銀幕情報	…8
☆ 第2回 鎌倉市利用登録団体懇話会報告	…8
☆ タウンニュースでTOTOMOをPR	…9
☆ 協働事業推進部会報告/ボランティア連絡協議会役員会報告	…9
☆ 活動日誌	…10
☆ 事務局から	…10



全国から集まった署名を提出、議会にも陳情し採択される

◎市長、教育長に署名簿を提出し、面談しました

司書の新規採用を求める署名活動のその後の経過を報告します。

8月12日に、それまでに集まった3060筆の署名簿を岩岡教育長に提出し面談させていただきました。中央図書館長も同席し、ローカル紙の「鎌倉朝日」も取材に来てくれました。

面談では、これまで何回も司書の新規採用を求める要望書を提出してきたが、「効率的運用」と「異動による補充」を言うだけで、要望理由に噛み合うような回答内容は得られなかった、他都市の司書採用状況を見ると、多くの自治体で新卒だけでなく中堅司書の募集をするなど、必要に応じて的確な人材確保がなされている、30年近くも司書採用をしてこなかった空白を埋めるには人事異動で欠員を埋めるという対応では不十分であり、公募して優秀で熱意ある有資格者を採用するほうがよほど確実に効率的でもあるということを示しました。

これに対して教育長からは、持続可能な図書館の運営体制のためには専門的技術を持った職員は必要、しかし教育委員会独自で正職員を採用することは難しく職員数適正化計画という縛りもある、中央図書館長とよく相談しながら有効な方法を見つけていきたいという回答がありました。



松尾市長に署名簿を手渡し和田代表

続いて、9月2日に松尾市長に面談し、追加署名812（合計3872、うち電子署名301）名の署名簿を提出しました。この日も「タウンニュース」という地域メディアが取材で立ち会ってくれました。

教育長面談でも述べたことに加えて、署名の意図について以下のような説明をしました。今回、署名活動に取り組んだのは、この要望が一市民団体のものではなく、多くの市民の願いであるということを示すためであり、結果的に全国から多くの署名が集まった、教育長面談でも話題になった職員数適正化計画には地域館を中心に図書館の人員減を図るとしているが、地域館は地域コミュニティの拠点として、むしろその役割は増しており計画を見直す余地があるのではないかと、市の公文書である第3次図書館サービス計画ではサービス内容の現状と課題について詳細に記述されており、それを踏まえて「技術職員の採用と育成」が目標とされている、図書館の人員体制は、そこに述べられている図書館の事業および司書の業務を精確に把握したうえで考えてほしい、全国から寄せられる鎌倉の歴史に関する資料相談に司書はすぐれた回答実績を積み重ねてきており、今後の課題である近代史資料室の市民利用、GIGAスクールへの対応なども考え合わせると、司書の重要性は増していく一方なのではないかと。

これに対して市長からは職員数適正化計画という枠はあるが柔軟に考えたい、教育委員会案件なので教育長とも相談しながら対応したいという回答をいただきました。市長、教育長ともこれまでよりは私たちの主張に理解を示していただけたという手応えは感じられましたが、残念ながら前向きに対応していくという答えまでは得られませんでした。

◎議会に陳情し、その結果・・・

要望書を出しても署名簿を提出しても行政のトップからは期待するような回答を得られませんでした。そこで今後どうするかを考えたとき、これまでのTOTOMOの「やれることはすべてやる」というスタンスに立つならば、ここで諦めるという選択肢はあり得ませんでした。準備期間は非常に限られていましたが、9月8日に始まる市議会に急遽陳情書を提出することにし、なんとか開会前日の7日に陳情書（添付資料①）を、付属資料も期限の9月10日に提出しました。9月14日の教育福祉常任委員会での陳述内容についても、当日までメンバーで打ち合わせをするという慌たしさでした。

教育福祉常任委員会での審議は陳述（和田担当）に始まり、それを受けて市の考え方が説明され（中央図書館長担当）、質疑に入りました。委員長を除く6人の委員から質問がありましたが、紙幅の関係で議員ごとのやり取りは省略し、質疑の中から明らかになってきたことを要約して報告します。

まず、30年近くも司書採用をしてこなかったのはなぜかという点について職員課の回答は、毎年、各部、各課にヒヤリングして採用人数を決めている、司書採用の要望が出た年もあったと思うが古い時期のことは分からない、最近5年間では職員数適正化計画もあって出ていないというものでした。単に出ていないというより現場は出したくても出せなかったという状況が伺えます。

現在の職員体制については、技術職9名（うち1名は再任用職員）、事務職9名（全員有資格者）、計18名の司書がいる。そして令和4年に3名、同6年3名、同7年に1名が退職する予定だという説明がありました。

職員数適正化計画では地域館は退職者を会計年度任用職員で補い、地域館の規模や機能は縮小していくとなっているが、現実には地域館は従来のまま運営されている、職員数適正化計画の見直しはないのかという質問には、計画自体の見直しはないが全体として補充はしないということではない、どうかたちで補充するかは検討中であるという回答でした。

職員数適正化計画はあっても必要があれば現場から声を上げるべきだ、現場が言わないで誰が言うのかという問いに対して教育部長は司書採用できるかどうか結論は出ていない、現場の声をよく聞いて決

めたいとしました。そのほか、技術職と有資格者事務職とのバランスの問題、司書の能力を評価する客観的基準などについて質疑がありました。

以上のような質疑を経て、陳情の扱いについては継続ではなく決を採ることになり、採択3名、不採択3名の同数になったため、委員長採決により不採択になりました。しかし継続扱いにはならなかったため10月1日の本会議にかけられ決を採った結果、なんと逆転で採択になりました。これはあくまで議会の判断であり、行政がどういう選択をするかは別問題だとはいえ無視はできないと考えますので、この議決を大きな流れにして司書の新規採用の実現に向けて今後も頑張る所存です。

全国の方からいただいた今回の署名総数は、10月3日現在4220名となりました。ご協力くださった皆様に心より御礼申し上げます。なお、陳情の付属資料に署名数を4377名と記しましたが、間違っていましたのでお詫びして訂正します。

(和田安弘)



令和3年度第一回図書館協議会 傍聴報告

8月6日 於 中央図書館

前回に続き、本年度初回となる図書館協議会を傍聴しました。紙面の関係で協議事項の、「鎌倉市図書館振興基金を活用する10号提案」事業名：写真集「(仮称) 古都鎌倉へのまなざし」出版事業についてのみ配布資料を添えて報告します。(添付資料②)

本事業の目的と仕様、業務内容、費用、販売価格などを概観して大変驚き、心配しつつ協議の推移を見守りました。委員からも懸念の声が続きました。◎一冊2～3000円の高額な本になるが売れる見込みはあるのか ◎販促事業を様々実施するというが本来の図書館業務に差しさわりはないのか ◎売れない場合、振興基金が目減りして終わりになるのではと心配だ ◎デジタル版にして大画面にしたり拡大したりできる方が活用範囲が広がるのではないのか ◎紙媒体であれば、分厚いもの一冊よりも薄くて数があるほうが教育現場としてはありがたい ◎文科省では研究成果のアウトリーチ活動を推奨しており、その意味では意義ある取組みと思うが数値をもっとつめてはどうか ◎振興基金残高のおよそ半分を一度に取り崩して大丈夫か ◎目的はよいが金額とのバランスが問題と思う etc.

また、職員から「出版物の売上金は通常市の一般財源に入るが、この写真集に関しては図書館振興基金に組み入れ、それによって基金の持続的運用を図りたい」との説明もありましたが、実際に可能なのか疑問です。

そもそもこの「基金条例」や「運用基準」(添付資料③)の活用目的の中に出版事業は入っていません。提案されるお金の扱いも想定されていません。今一度、基金創設にあたって行われた市議会質疑や、「鎌倉市図書館振興基金条例」および「同運用基準」の精査が必要ではないでしょうか。なお、全国でも稀少例となる公共図書館発行の出版事業にあえて取組みたいのであれば、該当する助成金やクラウドファンディング等、他部課で成果を上げている各手法の検討を提案したいと思います。

いずれにせよ、図書館振興基金の活用については図書館協議会の承認が必要であり、その結果は市長も尊重しなければならない重い判断となります。委員には出版事業や自治体財政の仕組み、他市の事例など広く知見を集めた上で適切な判断をして頂きたいと願っています。

(阿曾千代子)

★鎌倉市図書館協議会 <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/associ.html>

★鎌倉市図書館振興基金 運用基準 <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/pdf/associ/2019-2-5-1kikinkijun.pdf>

鎌倉国宝館特別展

「生誕 150 年記念 間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館 ―その知られざる物語―」 について

鎌倉国宝館 金子 智哉



間島弟彦氏肖像写真

鎌倉国宝館では、当館や図書館の建設に多大な貢献のあった間島弟彦氏が、今年で生誕 150 年を迎えたことを記念して展覧会を企画しました。

鎌倉国宝館は、大正 12 年（1923）に発生した大正関東地震による被害を契機に建てられた博物館ですが、建設費が当初の予定より多くかかり、昭和 3 年（1928）4 月の開館後も資金難にあえいでいました。それを知った愛子夫人は、同年 3 月に亡くなった夫の遺志を受け継いで 5 万円という大金を寄付してくださり、国宝館の運営を軌道に乗せる大きな力となりました。

そこで本展では、国宝館の開館前後の時期に焦点を当て、その中でも特に弟彦氏の功績に注目した展示構成としました。

展覧会の準備のため、当時の国宝館の業務日誌を読み解くとともに、収蔵庫において関連史料の探索を進めましたが、その中で思い出深い出来事がありました。業務日誌の中で、昭和 4 年 3 月 23 日に、国宝館創立の貢献者として弟彦氏の肖像写真を応接室に掲げることとなり、愛子夫人が写真の確認のために来館したという記述があります。この記述を見つけてから程なくして、たまたま出張で東京へ行くことになったのですが、帰りにふと思いついて弟彦氏と愛子夫人が眠る青山墓地に立ち寄り、間島家のお墓をお参りさせていただきました。それから 2、3 日後、その日も収蔵庫で史料搜索をしていた時に、収蔵棚の一番上の天井に面した、普段は滅多に見ることがないところを脚立で上がって何となく覗いてみました。すると、弟彦氏の肖像写真が入った古い大きな額がいきなり目の前に飛び込んできたのです。これこそ日誌に出てきた肖像写真に間違いのないと思われ、まさかこんな場所にあるとは想像もしておらず、大変驚きました。しかもお墓参りの直後の出来事でしたので、もしかしたら弟彦氏と愛子夫人が私に力を貸してくれたのかもしれないという気持ちになり、とても感慨深いものがありました。

本展では、この肖像写真を含めた館蔵史料のほか、弟彦氏の母校の青山学院内にある青山学院資料センターからも貴重な作品や史料を出品いただきます。さらには関東大震災後に修理をされて蘇った作品や、開館当初に展示された名品も多数展示します。あまり知られていない国宝館の黎明期に迫った見どころ満載の展覧会となっておりますので、是非ご期待ください。

—鎌倉国宝館 特別展— 生誕 150 年記念 間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館～その知られざる物語～

2021 年 10 月 9 日（土）～12 月 5 日（日）9：00～16：30（入館は 16：00 まで）

休館日 月曜日 観覧料 〈一般〉400（300）円 〈小中学生〉200（100）円 交通案内 JR 鎌倉駅、江ノ電鎌倉駅から徒歩 12 分、京急バス「大学前」、江ノ電バス「鎌倉八幡宮前」から徒歩 3 分。 住所 鎌倉市雪ノ下 2-1-1 鶴岡八幡宮境内

※駐車場がありませんので、車でご来館の際は、鶴ヶ岡八幡宮近隣の民間の駐車場をご利用下さい。

※本料金で平常展「鎌倉の仏像」もご覧いただけます。学芸員による列品解説の最新情報はホームページをご確認ください。

※（ ）内は 20 名以上団体料金。身体障がい者手帳の交付を受けた方と付添 1 名、鎌倉市の小中学生と市内在住の 65 歳以上の方は観覧料が無料となりますので、受付に学生証・カード等を提示して下さい。

電話／0467-22-0753 FAX／0467-23-5953 E-mail／ kokuhoukan@city.kamakura.kanagawa.jp

★鎌倉国宝館展示サイト <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kokuhoukan/28tennjikai.html>

いよいよ旧鎌倉図書館の修復工事が再開されます

長らく中断していた旧鎌倉図書館の修復工事ですが、昨年度に委託された構造設計に基づき職員による修正設計がなされ、一般競争入札が行われた結果、4 社が応札した中で松浦建設という業者に決まりました。松浦建設は小田原市の業者で、歴史的木造建築物を扱った経験は、さほど豊富ではなさそうです。市が議会に提出した工事経歴書には、明治 40 年に建てられた「皆春荘」という大正時代に首相になった清浦奎吾の別宅（木造平屋建て）の改修工事が挙げられているのみです。

入札結果は、予定価格が 2 億 7830 万円に対して、松浦建設は 2 億 6440 万円で落札しています。市はこの業者と仮契約を結び、9 月議会に工事請負契約締結の承認を求める議案が提出され、総務常任委員会での審議では全員賛成で承認されました。

質疑の中で印象に残った点をいくつか紹介します。工事監理の部分が大事と思うが、誰が行うのかという質問には、実施設計の修正を職員がやったので、監理も職員がやる、ただ構造設計にかかわる部分については委託した業者に設計意図伝達業務を依頼するということでした。また、保管してある部材のうち、再利用しなかったものを館内に展示し、外部に建物の由来がわかるような銘板を掲示する計画がある、竣工した時点で登録有形文化財の手続きを行うが、そのための文化庁との事前の調整は進めているということでした。

そのほか、建物の安全性、耐用年数、再生エネルギーの活用、車椅子でのエレベーターの乗り降りなどについての質疑があり、さらに旧図書館の修復は市自らが歴史的建造物の保存・継承に取り組む最初のケースなので、後々の教科書になるよう十全な取り組みを強く求める意見が出ていたことが印象的でした。本会議においても反対意見はありましたが、多数挙手で承認され、正式に修復工事が再開されることになりました。紆余曲折はありながらここに至った市の努力に感謝するとともに、今後も過去の経験を生かして遅滞なく進めていただくことを願い、見守っていきます。（和田安弘）

間島弟彦氏生誕 150 年を記念して実施するこの秋の企画をご紹介します

間島弟彦生誕 150 年 間島夫妻の事跡を辿る

近代鎌倉の教育文化に貢献した間島夫妻について学び、ゆかりの地を歩きます。

日 時 11 月 27 日（土） 13：00～16：30（開場：12：30）

会 場 鎌倉市 NPO センター鎌倉他

参加費 1000 円（入場料、保険料を含む）

定 員 20 名（申込先着順）

内 容

13：00～14：00 講座「間島弟彦・間島愛子と鎌倉」

14：15～15：45 見学ツアー 旧鎌倉図書館→寿福寺→英勝寺→鎌倉国宝館

15：50～16：30 鎌倉国宝館見学

特別展『生誕 150 年記念 間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館～その知られざる物語～』

解説 鎌倉国宝館学芸員 金子智哉氏

申 込 mail:nqe35295@nifty.com（和田）

問合せ tel:090-4728-5242（鈴木 19 時以降）

*TOTOMO はこの企画で、「湘南邸園文化祭 <http://shonan-teien-festival.org/>」に参加しています

松坡先生をめぐる人々 2 阪正臣

松坡文庫研究会 代表 袴田 潤一

宮内省御歌所寄人で、歌人・書家として著名な阪正臣（1855～1931）は、明治の初め鎌倉宮に奉仕し、後に西御門に別荘を構えるなど、鎌倉と所縁の深い人物でした。

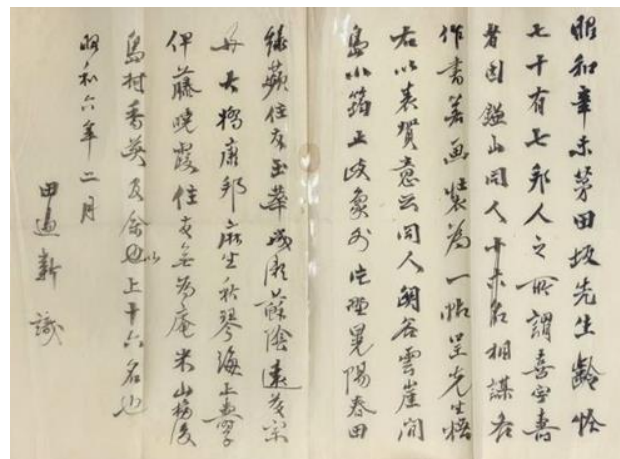
松坡先生と阪正臣との交誼は、御歌所長で正臣の歌の師の一人であった高崎正風（1836～1912）を介してだったと推察されます。松坡先生は松方正義や樺山資紀など多くの薩摩人と親交がありましたが、正風も薩摩出身の士族でした。正風の桂太郎宛書簡（一月初七日付、年不明 1910 年か 1911 年）があります。正風は松坡先生との数年来の親交を述べた上で、「一度親しく閣下ニ拝謁之榮を得学校経営上ニ付何分之御賛成ヲ仰度旨ニて老生ニ紹介之縁切ニ被相頼茲ニ添書相認候」と認めています。松坡先生と阪正臣の交友も明治 30 年代半ば頃に始まったと考えられます。

「茅田大人鎌山別業賦呈」と題された松坡先生の七言律詩からは正臣との親交が窺われます。先生が西御門の正臣を訪ねたことを詠んだ詩で、1929（昭和 4）年 6 月の『文字禅』に掲載されました。「茅田」は正臣の号です。「初夏鎌山樹色新（初夏の鎌山、樹色新たなり）」で始まり、正臣を「高才併領高風格 三拙自謙三絶人（才高く領を併せ、風格高し。三拙と自ら謙ずるも、三絶の人なり）」、詩・書・画に秀で並ぶものがないと称えています。結びは「陪游吾亦饒清興 案句盤桓倚草茵（陪して遊び、吾また清興饒かなり。句を案じて盤桓し、草茵に倚る）」。松坡先生と正臣、詩を詠んで楽しい時（清興）を共に過ごしたのです。

ところで、正臣は 1931（昭和 6）年に喜寿を迎えましたが、その祝賀に、鎌倉在住の文化人、或いは専門家でないにしても詩文・書画など文雅の道を愛する「文人」16 名（「鎌山」同人）が書画を持ち寄って一帖として贈ることにした（贈った）という記録があります。鎌倉市中央図書館の

松坡文庫付属資料の中の前稿（昭和 6 年 2 月の書付）です。「為一帖呈先生梧右以表賀意」（一帖と為し、先生の梧右に呈し以て賀意を表す）」と記され、「鎌山」同人 16 名が列挙されています。

「鎌山」という会（？）の実態ははっきりしませんが、同人を一覧すれば、昭和初年の鎌倉の文化を支えた錚々たる人々であることがわかります。関谷雲崖（1880～1968 日本画家）、間島小筠（1877～1956 愛子 間島弟彦夫人）、土岐象外（横）、片野晃陽（1877～1931 大巧寺住職 字は玄貞）、春田緑嶺（1872～？ 春田源之丞夫人時子）、住友玉萃、成瀬蘇陰（？～1939 海軍軍人 字は美雄）、遠藤宗好（茶人）、大橋康邦（1864～1948 日本画家）、麻生秋琴、海上寿子（1860～1946 歌人 亀廬舎主）、伊藤曉霞（曉子？）、住友無為庵、米山桜後、島村香英、そして田辺新之助。不詳の人物もいますが（読者諸子のご教示を願います）、旧鎌倉図書館建設に尽力した間島愛子、その歌の師であった海上寿子、松坡先生の漢詩の弟子で、松坡先生の漢詩会「松社」同人の片野晃陽師、鎌倉の風景画を多く描いた大橋康邦などは注目に値します。鎌倉を代表する文化人、文人が挙って阪正臣の喜寿を祝う書画を寄せたのです。その書画帖、現存するや否や。どこかにあるのならば、是非とも観たいものだと思いますか。



書画帖贈呈趣意書（鎌倉市中央図書館蔵）



第37回

映画と本と図書館と

『ニューヨーク 親切的なロシア料理店（原題：The Kindness of Strangers）』

（2019年・デンマーク・カナダ・スウェーデン・ドイツ・フランス合作）

監督：ロネ・シェルフイグ

セテラ・インターナショナル 配給（日本公開2020年）

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター 田邊恵美

私事ですがお陰様で『かまくら銀幕上映会』もこの9月で15年目に突入しました。『ととも』さんはもう23年！続ける事の大変さ、素晴らしさ、敬服です。『銀幕』は1本の作品は1日のみの上映ですが、鎌倉のお客様にとセレクトした作品群です。当日来られなくとも、後日別機会の鑑賞に自信を持ってお勧めいたします。

さて昔から多くの映画に登場しているニューヨーク公共図書館（NYPL）。『公共 Public』ですが年間予算の1/5は寄付で賄われ、NY州立でも、NY市立でもない。建物そのものも美しい観光名所。誰もが無料で利用出来るので、この作品でも父親のDVから逃れてNYに来た親子が訪れます。

ドキュメンタリー映画『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』でも紹介されたように館内のPC端末の利用はもちろん、自宅でツールが買えない子ども達にタブレット貸出システムを始めたりと、まさしく挑戦する図書館！そしてこの図書館にすっかり居場所を見つけた少年、母子でNYに暮らす事になる、と聞くと「あの図書館の近くに住みたい」と。気持ち分かります。私もNYに住めるならばNYPLの近くに住みたい！

不動産広告見るとスーパーから、公立校から、病院からXXメートル、等よく書かれていますが、〇〇図書館からXXメートル、なんて特筆せざるを得ないくらいの、建物のみならず内容も運営も素晴らしい図書館、いつかは鎌倉に生まれて欲しいものです。

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081） 於：鎌倉芸術館小ホール

10/12（火）『燃ゆる女の肖像』

10/26（火）『ミナリ』

11/ 9（火）『ファーザー』

11/24（水）『カムバック・トゥ・ハリウッド！！』

◎前売り券：1000円（当日券：1300円） ◎上映時間①11:00～ ②14:00～

☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館（0467-48-5500）へお問い合わせください。

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます



第2回 鎌倉市利用登録団体懇話会報告

鎌倉市市民活動センターによる懇話会が7月28日(水)18時30分から20時30分までZOOMを使って開かれました。参加者は23名、とともから2名参加しました。

テーマは「鎌倉の森と里山を考える」「森のプラットフォーム」です。

はじめに、・北鎌倉台峯緑地保全会・NPO 法人かまくら冒険遊び場やまもり・一般社団法人地球の楽校の方から活動の事例紹介がありました。その後6グループに分かれて「鎌倉の森と里山を考える」をテーマに意見交換や団体が抱えている課題など情報交換を行いました。各団体の活動の中心は小中学生、就学前のお子さんとその保護者の方々が多く、若い人(高校大学生を含め社会的に活躍している年代)が少ないのが共通の課題のようです。

私達のグループは大人が参加して出来ること、他の団体と共同でできることに何があるか。その具体例の一つとして図書館と一緒に青空カフェで朗読会を開くなどが挙げられました。また「自分たちができること」を真剣に考えている大学生団体もあり、とても頼もしく感じました。

NPO センター鎌倉では、鎌倉の森の里山・森・緑を楽しめるようにサイト「森のプラットフォーム」が立上げられました。

ZOOM 会議経験は数回になります。PCの画面を見ながらの会議に未だに思うようなじめません。PCのキーボードを触って画面が一転するとドキッ、発言されている方の顔がスッと画面に出てきません。長い間アナログで生きて80代に入ってからオンライン会議は緊張の連続です。身体中がコチコチになっています。順応できない自分に歯がゆく思いつつも何とか取り組んでいます。(阿部光世)

・・・タウンニュースでTOTOMOをPR・・・



タウンニュース鎌倉版は、鎌倉市内全域を対象に、新聞での折込、公共施設等での配布を行っている地域新聞です。現在、約42,000部を発行。

NPOセンター鎌倉では、タウンニュースの紙面を使って、登録団体の紹介をしています。不定期に一団体ずつの紹介ですが、この機会にぜひ、多くの方々に私たちの活動を知っていただこうと、掲載を希望しました。

申し込みから、2か月ほど経った8月27日号に掲載されました。メッセージとともに、会員の古矢史於さんによる中心メンバーの似顔絵入りです。

この記事が多くの方々の目に留まり、TOTOMOに関心を持っていただけたらと思います。お手元ない方は、タウンニュースのFacebookで読むことができます。

(杉崎敦子)

TOTOMO COMING NEXT ! 事務局からのお知らせ



読書の秋、私たちの鎌倉市図書館を支えてくれる司書さんが新規採用されるよう活動をしています。署名活動へのご協力ありがとうございました。

おはなしひろくせん勉強会

日 時： 10月21日（木）10時～12時 場 所：福祉センターにて
テーマ： 鎌倉ゆかりの絵本作家の作品（ファンタスティック☆ライブラリーでの展示テーマとして検討中）おすすめの絵本や紙芝居などをご紹介します。
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読 書 会

日 時： 10月6日（水）11時～12時半 場 所：NPOセンター鎌倉にて
テーマ本： 大岡昇平著『ながい旅』（角川文庫）、大島真寿美著『渦』（文春文庫）です。
お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時： 10月6日（水）13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉にて
お問い合わせは、鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

湘南邸園文化祭 「間島弟彦生誕 150 年 間島夫妻の事跡を辿る」

今年も湘南邸園文化祭が9月5日より始まりました。TOTOMOでは、間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会によるイベントを行います。近代鎌倉の教育文化に貢献した間島夫妻について学び、ゆかりの地を歩きます。

日 時：11月27日（土）13時（開場12時半）～16時半

会 場：NPOセンター鎌倉等

参加費：1000円（入場料、保険料を含む）

申込み：mail:nqe35295@nifty.com（和田）申込み時に氏名、連絡先をお知らせください。

お問い合わせは、19時以降に鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

※上記の各会については、COVID-19感染の状況により、変更になる可能性があります。参加される方はTOTOMOのHPやFBでご確認いただくか、お問い合わせください。

★図書館友の会全国連絡会

8月26日、日本図書館協会に団体として会員登録しました。また、プロジェクトとして、司書職制度検討、ツタヤ図書館問題情報パンフレット作成、アンケート検討&要望書立案の各班の活動が進んでいます。

お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。



編集後記 * * * * *

☆ワクチン接種が終わっても、マスクや消毒液は手放せず、外出は控えめな日々。せめて心は自由にと図書館で本を借りて読んでいます。近くに図書館があってよかった！（A.S）
☆9月末現在、感染者数は減少してきているようですが、緊急事態宣言・マン防を何度も経験している身には「これでも大丈夫」とは、なかなか思えません。秋から冬にかけて、深呼吸できるきれいな空気が戻ってきますように。（M.S）

題字・巻末カット：小島寅雄

2021年10月4日発行

図書館とともにだち・鎌倉（代表：和田安弘）編集：阿曾・黒瀬・目黒・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545

HP：<http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail：toshokantomodachi@gmail.com

